令和５年度　リーベルネットワーク合同研修会　報告書

１．開催日時：令和５年８月３日（水）14：00～16：00

２．開催場所：おりなす八女　はちひめホール

３．参加者　：計 49 名

＜内訳＞

〇福祉関係

ゆうゆう・よろず屋・悠・陽だまりの里・キャンディハウス・八女総合療育館・びいちゃむ・イエローセカンド・あるくとぷらす・八女市障がい者基幹相談支援センター・八女市障がい者福祉係

〇学校関係

福島小・長峰小・上妻小・三河小・八幡小・忠見小・川崎小・岡山小・黒木小・黒木西小・筑南小・立花小・星野小・福島中・南中・見崎中・西中・黒木中・筑南中・立花中・星野中・矢部清流学園・八女市教育委員会教育指導課

―講演―

テーマ：「障がいを持った子どもたちの出会いから考えてきたこと」

講　師：筑後特別支援学校　特別支援コーディネーター　　秋山辰郎氏

（講演内容）

〇さまざまな出会いから考えてきたこと

・生（生きている事）へのリスペクト

・地域とつながることの意味

・インクルーシブ教育へ

〇事前質問より

①卒業後の就労選択や就労状況について

・ここ数年、本校あて指定校求人が数社きている。（県内では唯一）

※指定校求人とは、企業側が指定した学校にのみ求人を出すこと。指定を受けた学校は校内選考などを実施して学校推薦で応募者を出す。

②将来を見据えた支援のあり方について

・保護者が特別支援学校への入学を拒む場合、保護者を責めずこれまでの苦労を聞き取り労っていくことが必要。信頼関係ができたところでこどもの最善の利益を考える。例）特別支援学校と放課後等デイサービスの生活。保護者は安心だが、こどもにとって最善の利益になっているか？地域との関りも大切。

〇現在の教育の問題

・特別支援学校、学級ではなくても、特別支援教育はできる。

・不登校を生み出す背景に、同調圧力と校則も影響している。性的マイノリティーの問題も多い。

〇非認知能力（内面的スキル、目に見えない力）

・目標を決めて取り組む、意欲を見せる、新しい発見をする、周りの人と円滑なコミュニケーションをとるなどの力。個人が学ぶとともに、友達と協力しあいながら共に学ぶ、友達と関わりながら違いを認めあうこと、支えあうことの大切さを学ぶなど、学校は子どもに学力をつけるだけではなく人間関係を作る力や社会性同等性など人間性を培い健康でたくましい体力をつけるために貢献し、「調和のとれた育成」「生きる力」を育む場となる。

〇特別支援学校生徒と地域学校生徒との交流会を通して築ける関係

・障がいを持っている人を腫れ物あつかい、特別あつかいするのではなく、一人の人として見て、たくさん接していく中で理解していく。大人（先生など）自ら行動しお手本となる。
・健常者の障がいを持つ人に対する好ましい接し方は、「好意の無関心」でしゃばらず無視せず接していく態度。

〇現在の教育の課題と今後の期待

・学級規模（特別支援学級が増えた)、教員のストレス、退職する教員が増え教員不足が問題となっている。教育システムの抜本的な改革が喫緊の課題。子どもの捉え方や自分の価値観を変えてみることと学校の持つ専門性に自信を持つことが重要。
・インクルーシブ教育（多様な子どもたちが共に学ぶ教育)、さまざまな状況に置かれた子どもたちが地域で一緒に学ぶこと。すべての子どもたちが（障がいがあってもなくても）安心して自分の意思を表明できる環境を作る。教育のキーワードは、「多様性と、公正（公平性)」。個性的というと否定的に捉えられる風潮があるので「カラフルな子どもたち」と捉えていく。多様性の中で子どもたちは公平性を学んでいく。